

学都屋台食談

第1回

金沢で過ごす学生生活の意義や仕事観・人生観を、石川県に拠点を構える企業経営者や大学学長らが講師となり、講師の経験をもとに学生と語る「学都屋台食談」が11月10日から12月2日にかけて、金沢市の片町中央味食街で開催されました。2006年から今年で12年目を迎え、講師と県内の大学に通う学生が和やかに繰り広げた食談で、講師が学生に熱く語られたメッセージを紹介します。第1回は喜多甚一・ビーイングホールディングス代表取締役。



REAL LOGISTICS
Being Group
ビーイング グループ

「時間はみんなに平等 使い方が違い生む」

もともとは自分で商売するつもりなんてありませんでした。祖父が始めた運送会社が父の代で破綻し、自分一人で食べていくために月に15万円を稼げる仕事を探しているうち、近所の鶏肉店から「委託で営業マンをやらないか」と誘ってもらったのがきっかけです。その後、社員1人、軽トラック1台で起業しました。当初は生活費が月1万円の日々が1年半も続いて苦労しましたが、31年かけて2000人以上の従業員を抱える企業グループに成長しました。2年後には株式上場も計画しています。

こう話すと、成功の秘けつは何ですかと聞かれることがあります。私はそれは時間の使い方だと思っています。時間はみんなに平等に与えられています。限られた時間をうまく使うことが後々違いを生むのではないのでしょうか。学生時代は時間が無限にあるように感じているかもしれませんが、時間はあっという間に過ぎていきます。学生時代こそ時間を無駄にせず、有意義に使うように心がけてください。

「仕事で充実感を得るには アイデンティティーの確立を」

学生であれば、自らのアイデンティティーについて考えることにも時間を使ってほしいと思います。言い換えれば、自分は何者なのか、何をするために生まれてきたのかを考えてほしいのです。そんなことは人生と何も関係ないと思うかもしれませんが、決してそうではありません。というものはアイデンティティーに従って行動することで充実感や幸福感を得られるからです。そして、仕事を選ぶ際にはこれがいい判断基準になるのです。企業にもアイデンティティーがあり、それを端的に表したのが企業理念です。皆さんと企業のアイデンティティーに重なる部分が多ければ、きっと自分らしく仕事ができるでしょうし、やりがいを持って働くことができるに違いありません。日本が貧しかった時代はそんなことはさほど重要ではありませんでした。私が仕事を始

「誰も一人では 成功できない」

時間の使い方と同じように人生を変えるものをもうひとつ挙げましょう。それは出会いです。世の中には一人で会社を大きくしたり、一人でプロ野球のスター選手になったり、一人で売れっ子の芸能人になったりした人はいません。必ず、どこかのタイミングで出会いがあつて、誰かが認めてくれたり、引き立ててくれたり、後押ししてくれたりすることが成功の原動力になっているのです。

私自身もそうでした。商売を始めた頃は信用も実績も何も持ち合わせていませんでした。そんな私にも仕事を発注してくれる人がいて、まさにそのお客さんは神様のように見えたのです。冒頭で話した鶏肉店の社長さんが声を掛けてくれなければ、起業せずに今頃は会社勤めをしていたかもしれません。

今の自分があるのは多くの人との出会いがあったからです。出会いは人の人生を変えます。もしかすると皆さんも自分の人生を変えてしまうような人と既に出会っているかもしれません。ぜひ出会いを大切にしてください。

時間の使い方と出会いが人生を変える



講師

ビーインググループ CEO
株式会社ビーイングホールディングス
代表取締役

喜多 甚一氏

きた・しげかず

1966年石川県かほく市(旧七塚町)生まれ。県立津幡高等学校卒業後、20歳で起業。ひとりで始めた会社を約2000名の従業員が勤めるグループ企業へ成長させ、昨年9月に創業30周年を迎えた。趣味は読書(中国古典)の他、興味があることとして機械全般(メカニック)。座右の銘は「知行合一(ちこうごういつ)」。

企画/榊都市環境マネジメント研究所